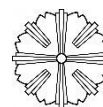


PRESS RELEASE



米沢市

令和8年7月7日

山形大学・米沢市 共同発表 JAXA 宇宙戦略基金採択プロジェクト「STAR-MEALS」始動

火星居住建築から、天元台の宇宙レストランへ
米沢・置賜から、宇宙時代の新たな食・産業・人材育成を共創

山形大学と米沢市は、JAXA 宇宙戦略基金『宇宙転用・新産業シーズ創出拠点（SX-CRANE）』に採択された山形大学の研究開発プロジェクト『STAR-MEALS（革新的宇宙ガストロノミー技術開発拠点）』を契機に、米沢・置賜地域を拠点とした宇宙時代の新たな食・産業・人材育成の共創を進めます。

STAR-MEALS は、長期保存食品、3D/4D フードプリンティング、食感解析 AI、デジタルレストランシステムなどを統合し、将来の宇宙生活を支える「宇宙レストラン」の実現を目指す研究開発プロジェクトです。

本構想では、宇宙という極限環境への挑戦を、米沢・置賜地域の食品、農業、ものづくり、観光、教育、文化と結びつけ、地域から新たな技術、事業、人材を生み出すことを目指します。今後、天元台高原を未来の食を実証・共創するフィールドとして位置づけ、地域企業、教育機関、市民の皆さまとともに、宇宙時代の食と暮らしのあり方を共創していきます。

【本件のポイント】

① 山形大学と米沢市が、宇宙時代の新たな地域共創に向けて連携

JAXA 宇宙戦略基金「SX-CRANE」に採択された山形大学の研究開発プロジェクト「STAR-MEALS」を契機として、山形大学と米沢市は、米沢・置賜地域を拠点に、宇宙時代の新たな食・産業・人材育成の共創に取り組めます。

② 天元台高原を、未来の食を実証・共創するフィールドへ

STAR-MEALS では、天元台高原の高地環境を活用し、宇宙での長期滞在を見据えた食の保存、調理、食体験、居住環境の実証に挑戦します。米沢・置賜の自然、歴史、文化、産業を生かしながら、地域と宇宙をつなぐ新たな拠点づくりを目指します。

③ 米沢市役所で特別展示「MARS to TENGENDAI」を開催

7月10日より約1カ月間、米沢市役所1階市民ホールにて、建築家・曾野正之氏ら Clouds Architecture Office による火星居住ビジョンと、天元台高原を舞台とした宇宙レストラン開発拠点構想を紹介します。市民、企業、学生、教育機関の皆さまとともに、天元台から始まる未来の食と暮らしを考え、米沢・置賜の技術や文化を宇宙時代へつなぐための展示です。

【概要】

STAR-MEALS とは

宇宙時代の食と暮らしを支える宇宙ガストロノミー研究開発

「STAR-MEALS（革新的宇宙ガストロノミー技術開発拠点）」は、山形大学を代表機関として実施する研究開発プロジェクトです。JAXA 宇宙戦略基金「宇宙転用・新産業シーズ創出拠点（SX-CRANE）」に採択され、米沢市と山形大学の連携のもと、米沢・置賜地域を拠点に、宇宙時代の新たな食の技術と地域共創の実現を目指します。

本プロジェクトでは、将来、月・火星・民間宇宙ステーションなどで人々が長期間暮らす時代を見据え、食を単なる栄養補給ではなく、健康、文化、コミュニケーション、心の豊かさを支える社会インフラとして捉えます。そのために、長期保存食品、3D/4D フードプリンティング、食感解析 AI、デジタルレストランシステムなどの技術を統合し、宇宙での食材保存、調理、食体験、資源循環を一体的に支える基盤技術の開発に取り組みます。

STAR-MEALS では、将来的に、食材の保存庫、キッチン、ダイニングを一体化した宇宙レストランの実現を目指します。長期保存された食材を必要に応じて再構成し、3D/4D フードプリンティングや AI を活用して、一人ひとりの好みや健康状態に合わせた食を提供する未来の食環境を構想しています。

一方で、本構想は宇宙だけを目指すものではありません。宇宙という極限環境への挑戦を通じて生まれる技術やアイデアを、災害対応、高齢者向け食品、観光、教育、地域産業の高度化など、地上社会の課題解決にも展開していきます。米沢・置賜地域の食品、農業、ものづくり、観光、教育、文化を結びつけ、地域から宇宙時代の新しい産業と人材を育てることを目指します。

今後は、山形大学を中心とする研究開発拠点、日本科学未来館を中心とする市民参加型の実証・発信拠点、そして天元台高原の高地環境を活用する「天元台高地ラボ」を連携させ、研究開発と地域共創を段階的に進めていきます。

【背景】

なぜ米沢・置賜から宇宙を目指すのか

地域の技術・文化・人材を、宇宙時代の新産業へ

近年、月面での持続的な活動を目指すアルテミス計画や、民間宇宙ステーション計画の進展により、人類の宇宙活動は「行く時代」から「暮らす時代」へと移りつつあります。宇宙で長期間暮らす時代には、食料の保存や調理、健康管理、居住環境、コミュニケーションなど、日々の暮らしを支える技術がますます重要になります。

なかでも「食」は、人が生きるために欠かせない基盤であると同時に、健康、文化、会話、楽しさ、心の豊かさを支える大切な要素です。宇宙での食の課題は、宇宙飛行士や将来の宇宙旅行者だけの課題ではありません。高齢化、災害時の食料供給、地域資源の活用、食料安全保障、観光や教育の新しい価値づくりなど、地上社会が直面する課題とも深くつながっています。

米沢・置賜地域には、食品、農業、ものづくり、機械加工、材料技術、観光、教育、文化など、多様な地域資源があります。山形大学工学部が立地する米沢は、地域産業と大学の研究開発が近い距離で結びついてきた土地でもあります。STAR-MEALS では、こうした地域の技術や知恵を、宇宙という新しい挑戦の場に接続し、地域から新たな事業、人材、文化を生み出すことを目指します。

その実証・共創フィールドとして注目しているのが、米沢市の天元台高原です。天元台高原は、高地環境、豊かな自然、観光資源をあわせ持つ場所であり、宇宙での長期滞在を見据えた食の保存、調理、食体験、居住環境を考えるための地上実証の場として大きな可能性を持っています。

STAR-MEALS では、天元台高原を、未来の食を実証するだけでなく、市民、企業、学生、教育機関、自治体がともに未来を考える共創のフィールドとして位置づけます。天元台の自然、歴史、文化と、未来の宇宙生活のイメージを重ね合わせることで、米沢・置賜ならではの「宇宙時代の食と暮らし」の拠点づくりに挑戦します。

この取り組みは、宇宙開発を研究者や専門機関だけに閉じたものにせず、地域企業、教育機関、自治体、市民が参加できる新しい地域共創の形を目指すものです。「私たちの技術は宇宙に届くか？」という問いを共有しながら、米沢・置賜から宇宙時代の新たな産業創出に取り組んでいきます。

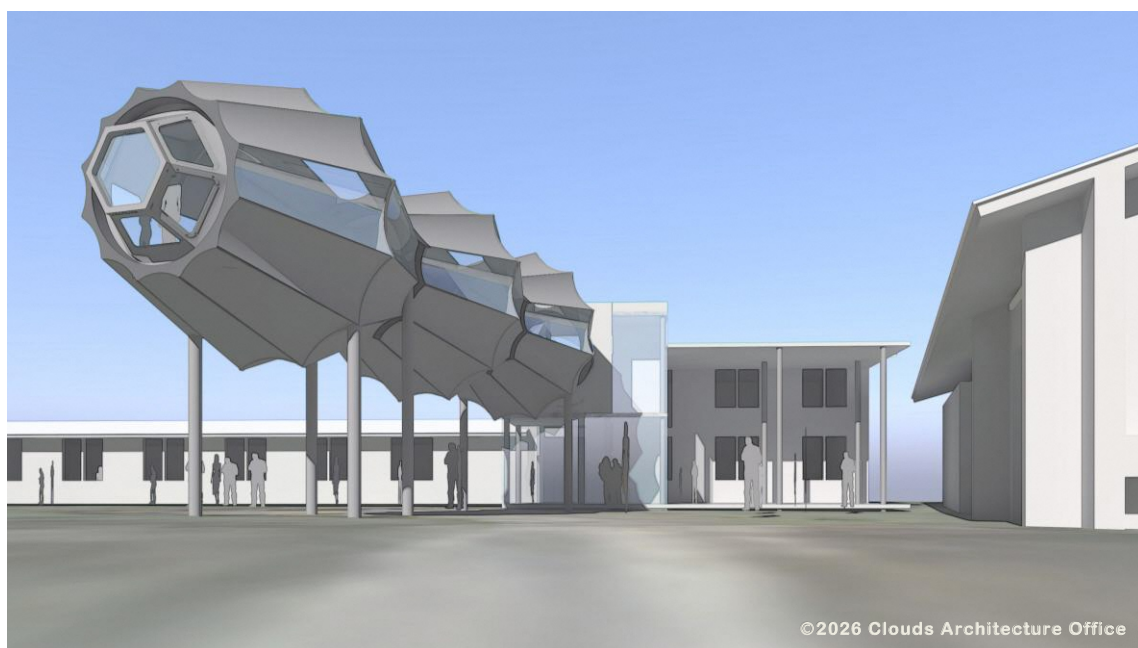
【天元台高地ラボ構想】

宇宙レストランの未来を地上で実証する共創フィールド

STAR-MEALS では、将来の宇宙生活を支える食の拠点として、食材の保存、調理、食体験を一体的に支える「宇宙レストラン」の実現を目指しています。そのための技術や食体験を地上で段階的に検証するため、米沢市の天元台高原に「天元台高地ラボ」を構想しています。

天元台高地ラボは、宇宙での長期滞在を見据えた食の保存、調理、食体験、居住環境を、地域の自然や文化と結びつけながら検証するための実証・共創フィールドです。

【天元台高地ラボ構想図】



天元台高原における宇宙レストラン開発・実証拠点の構想図。食の保存、調理、食体験、居住環境を地上で検証する共創フィールドとして構想しています。

天元台高地ラボの構想には、建築家・曾野正之氏ら Clouds Architecture Office が参画しています。曾野氏は、火星居住建築のデザインなどを通じて、人が本当に暮らしたくなる宇宙居住環境のあり方を探究してきました。

STAR-MEALS では、その知見を生かし、天元台という場所の自然、歴史、文化を読み解きながら、人々を引き寄せる「磁石」のような共創拠点づくりに挑戦します。

ワインの世界に「テロワール」という言葉があるように、食や建築は土地の気候、風土、歴史、文化と深く結びついています。STAR-MEALS では、天元台のテロワールと、未来の宇宙生活のテロワールが会う場所として、天元台高地ラボを育てていきます。ここで生まれる食と暮らしの実証は、将来の宇宙生活だけでなく、米沢・置賜地域の新たな産業、観光、教育、人材育成にもつなげていきます。

STAR-MEALS 特別展示

MARS to TENGENDAI 火星の家から天元台へ

本展示では、建築家・曾野正之氏ら Clouds Architecture Office による火星居住ビジョン「Mars Ice House」「Mars Hydrosphere」と、天元台高原を舞台とした宇宙レストラン開発拠点構想を紹介します。

火星で人が暮らす未来を考える建築作品と、天元台高原で進める未来の食の実証・共創フィールド構想をあわせて展示することで、宇宙居住研究と地域共創が交差する未来像を発信します。

本展示は、市民、企業、学生、教育機関、自治体の皆さまとともに、天元台から始まる未来の食と暮らしを考えるための入口です。米沢・置賜の技術や文化を、どのように宇宙時代へつなぐことができるか。展示を通じて、地域の皆さまとともにその可能性を考えていきます。

【展示概要】

期間 7月10日（金）～8月4日（火） 8時30分から17時15分（土日、祝日、休日を除く）

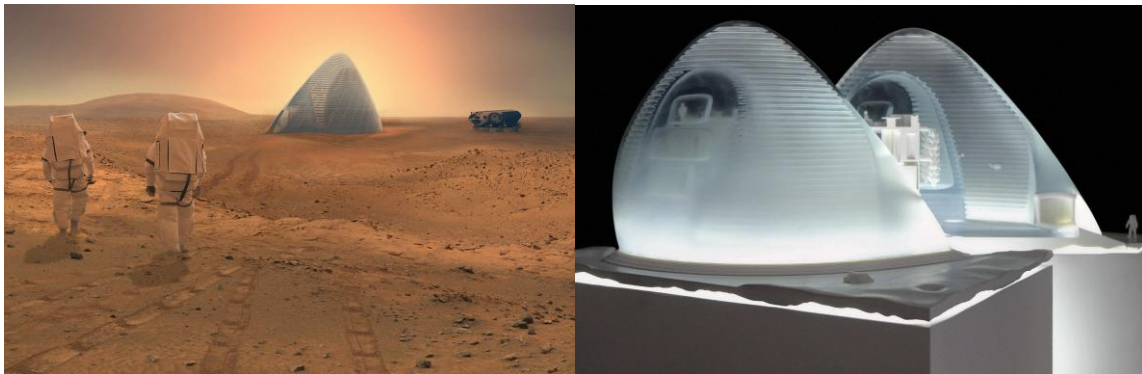
会場 米沢市役所1階 市民ホール（〒992-8501 山形県米沢市金池五丁目2番25号）

観覧料 無料

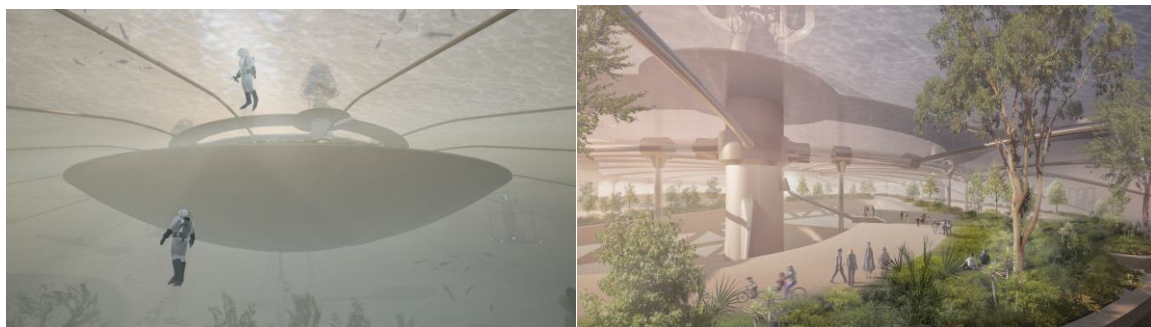
内容

- ・ Mars Ice House — 火星での住居を提案する建築コンセプト（NASA 火星居住コンペティション最優秀賞）
- ・ Mars Hydrosphere — 1万人が住む火星の都市コンセプト（ヴェネチアビエンナーレ国際建築展出品作品）
- ・ 天元台高地ラボ構想 — 未来の食を実証・共創するフィールド構想

みどころ 火星居住ビジョンと、その設計者が参画する天元台高地ラボ構想を同時に紹介します。火星での暮らしを考えることから、天元台で始まる未来の食と暮らしを考える展示です。



Mars Ice House © Clouds AO / SEArch+



Mars Hydrosphere ©2026 Clouds Architecture Office. All Rights Reserved.

【Clouds Architecture Office について】

Clouds Architecture Office（クラウド・アーキテクチャー・オフィス）は、建築家・曾野正之氏とオスタップ・ルダケヴィッチ氏により 2010 年にニューヨークで設立された建築設計・アート・リサーチスタジオです。住宅、公共施設、パブリックアートから宇宙建築に至るまで、地上と宇宙の双方を視野に入れたプロジェクトを展開しています。

同スタジオは、NASA 主催の火星居住建築コンペティションで最優秀賞を受賞した「Mars Ice House」をはじめ、火星や宇宙で人が暮らすための居住環境をテーマとする研究・設計活動に取り組んできました。STAR-MEALS では、その知見を生かし、天元台高原という場所の自然、歴史、文化を読み解きながら、宇宙時代の新しい食と暮らしの拠点づくりに取り組みます。

【関係者コメント】

山形大学 卓越研究教授／STAR-MEALS プロジェクト研究代表 古川英光

STAR-MEALS は、宇宙レストランの実現を目指す研究開発であると同時に、米沢・置賜の技術、食、文化、教育、観光を未来へつなぐ地域共創プロジェクトです。天元台のテロワールと、未来の宇宙生活のテロワールが会うことで、ここにしかない「未来の食」の拠点を創り出したいと考えています。「私たちの技術は宇宙に届くか」という問いを、地域の皆さまと一緒に育てていきます。

米沢市長 近藤洋介

標高 1300～1800m に位置する雲上のマウンテンリゾート天元台。激しい寒暖差の環境のため、コメ、米沢牛、多様な野菜や果樹など極上の「食」を育む奇跡の盆地・置賜盆地。山形大学と米沢市が連携し、STAR-MEALS プロジェクトを進め、ここ米沢・天元台が産業創造、人材育成、観光の新しい拠点となることを期待します。

【今後の展開】

山形大学と米沢市は、STAR-MEALS を契機として、米沢・置賜地域の食品、農業、ものづくり、観光、教育、文化を、宇宙時代の新たな技術開発や産業創出につなげる取り組みを進めていきます。

今後は、天元台高原を未来の食と暮らしを考える実証・共創フィールドとして位置づけ、地域企業、教育機関、市民の皆さまとともに、研究会、交流会、展示、実証実験などを段階的に展開していく予定です。

【問い合わせ先】

山形大学米沢キャンパス運営部研究推進課 原 拓也

電話：0238 - 26 - 3236 メール：takuhara@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【米沢市側問い合わせ先】

産業部商工課 森谷久善 電話：0238-22-5111（内線）4100